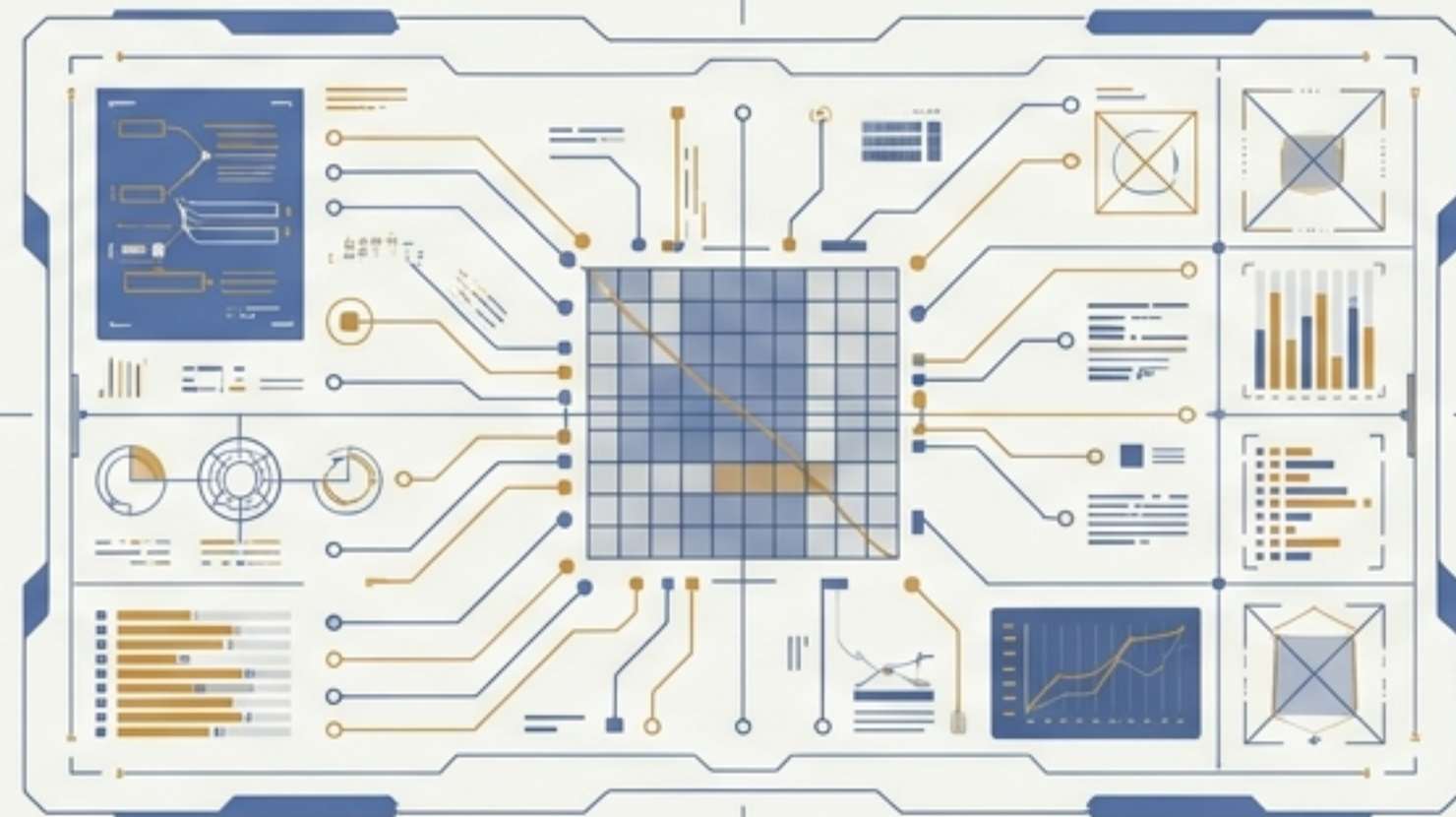


AIエージェント時代の知財戦略： 「特許ウォーズ®」と 次世代MCPの全貌

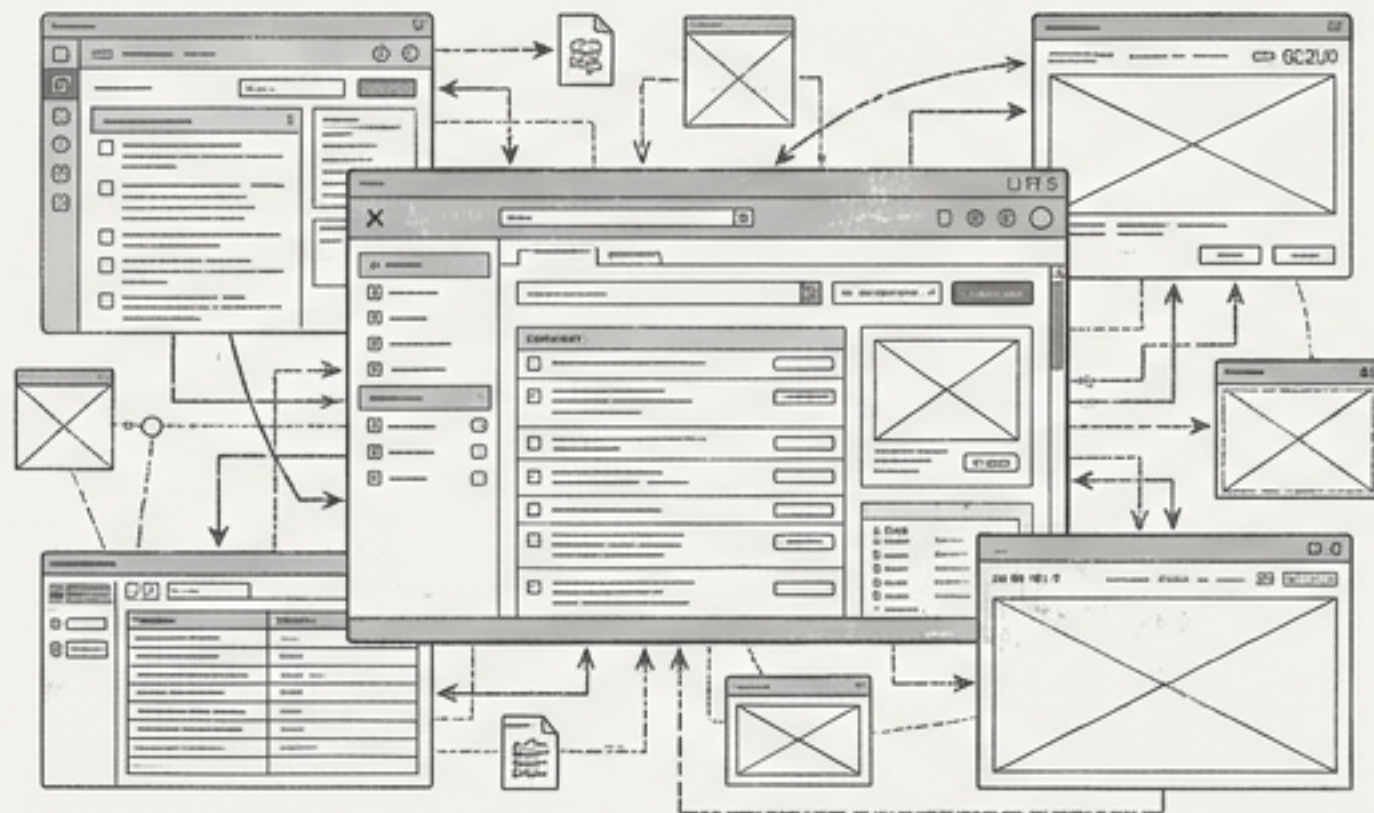
AI Samurai新機能発表会2026
徹底分析



2026年7月 | EXECUTIVE BRIEFING

検索する時代

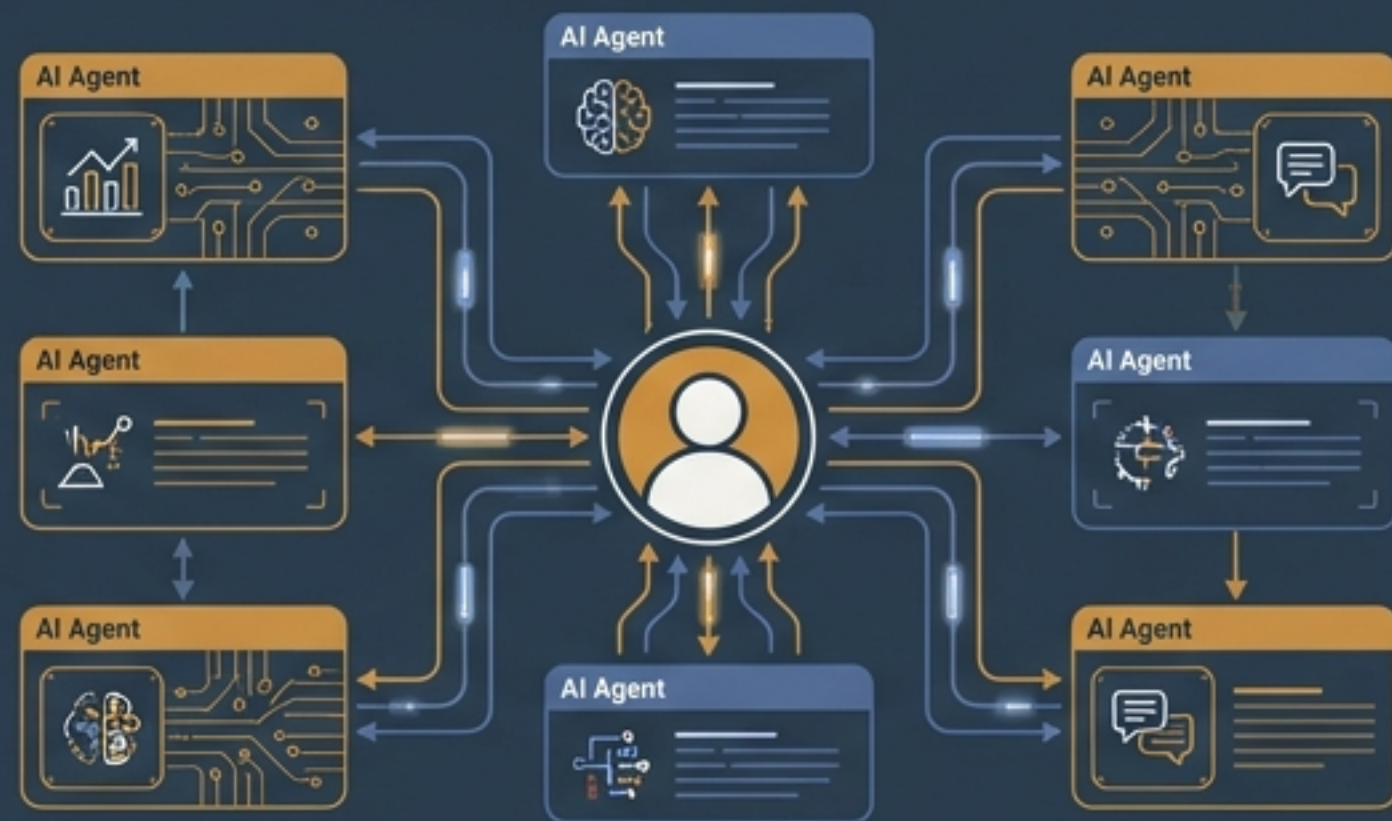
- 複雑なUI操作
- 難解な検索コマンドの習得
- 単一のツール操作



- 複雑なUI操作
- 難解な検索コマンドの習得
- 単一のツール操作

戦略を指揮する時代

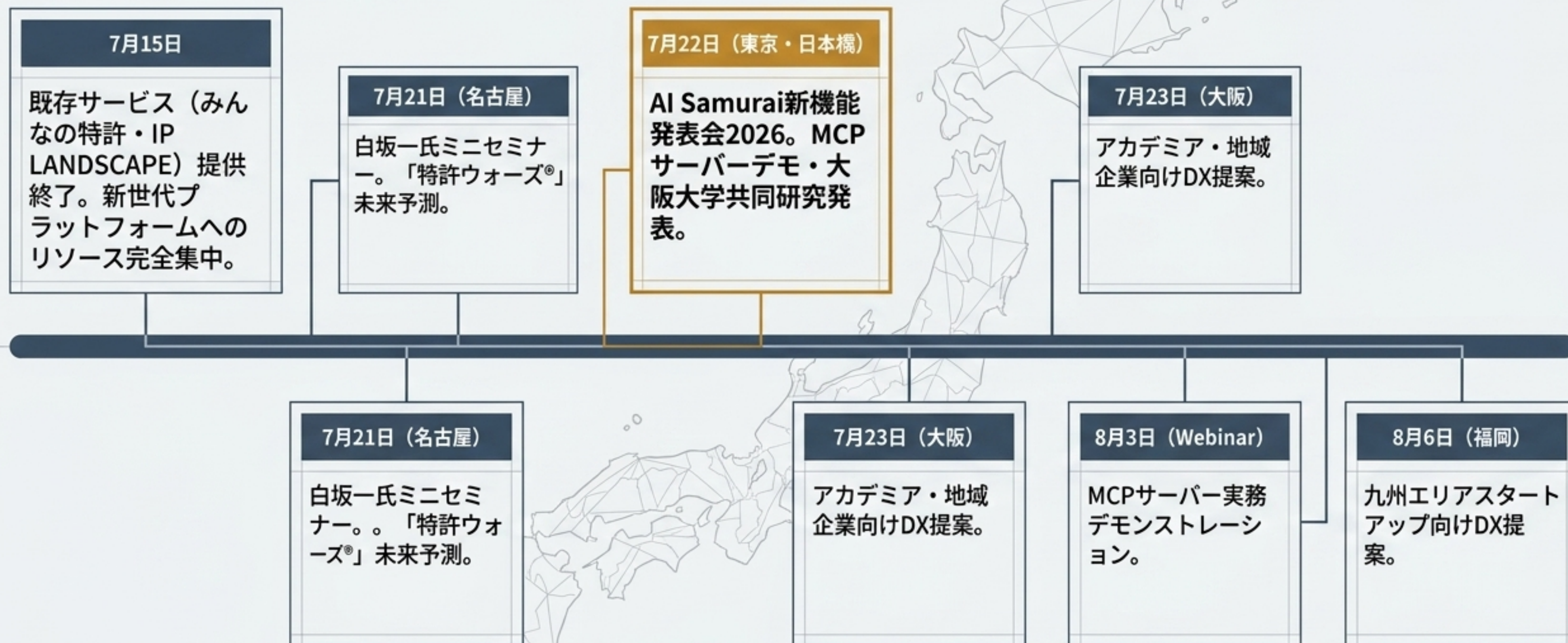
- 自律型AIとの協働
- 自然言語によるプロンプト管理
- 高次元な戦略立案



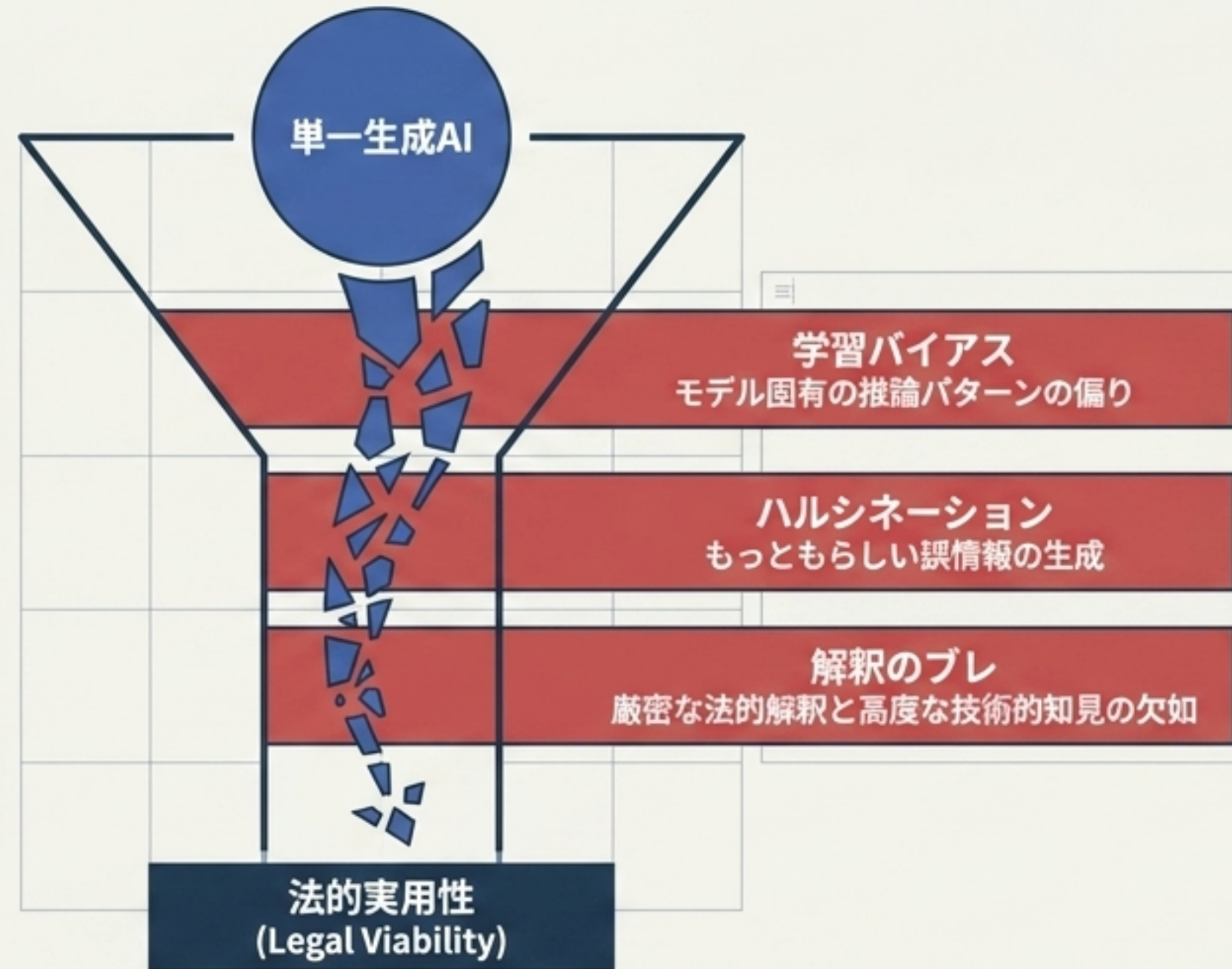
- 自律型AIとの協働
- 自然言語によるプロンプト管理
- 高次元な戦略立案

知財業務は「操作スキルの熟練」から解放され、
「高品質なプロンプト管理と戦略的指揮」へと役割を劇的に変化させる。

2026年夏・戦略的展開ロードマップ

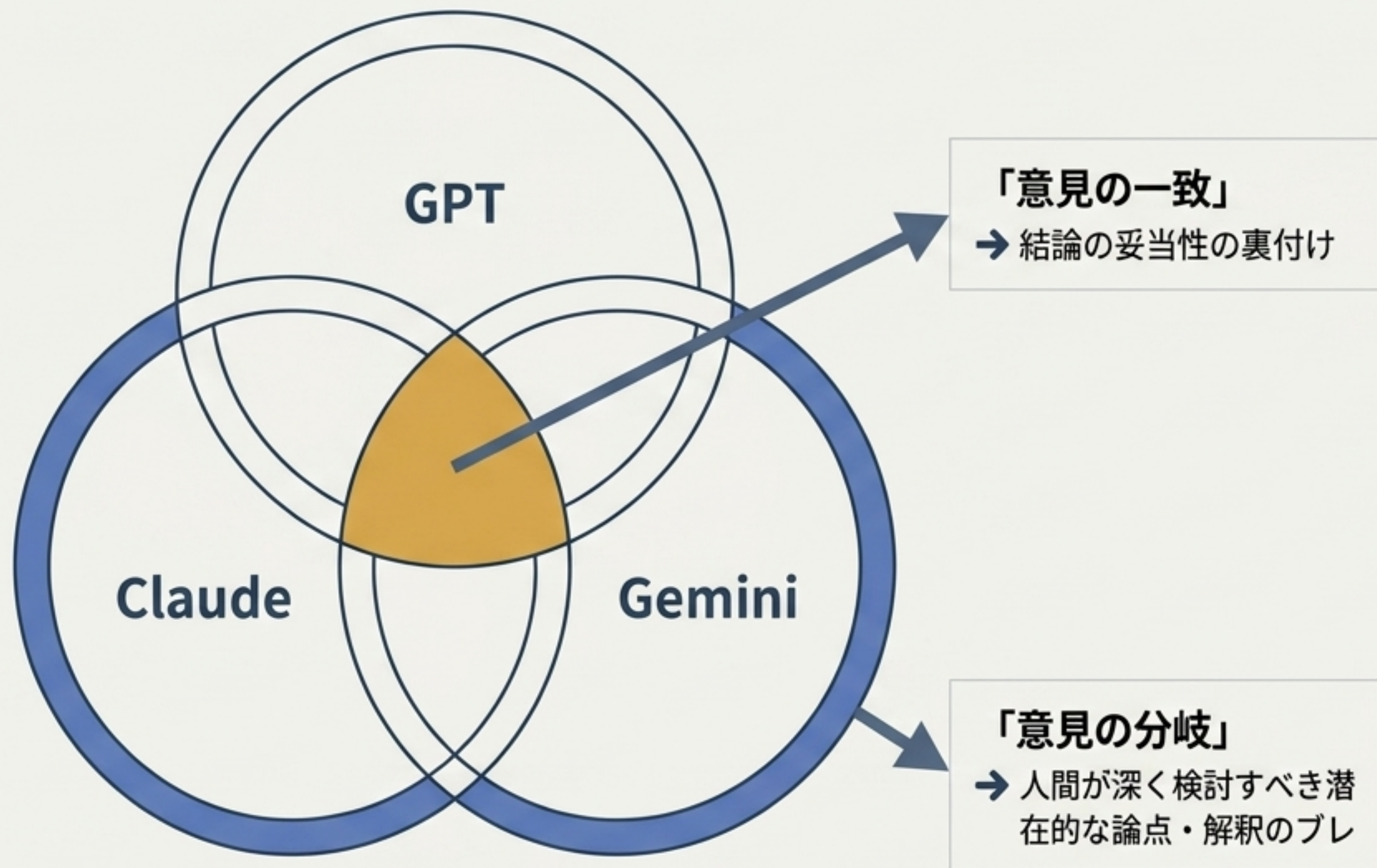


単一生成AIが抱える「致命的な死角」



単一モデルの出力をそのまま実務で採用することは、
特許実務において重大なリスクを伴う。

第一の柱：マルチAI合議システム 「三人寄れば文殊の知恵」



1. 自動相互議論

GPT (OpenAI)、Claude (Anthropic)、Gemini (Google) による自律的な同意・反論・補足。

2. 議論周回数の制御

アイデア出し（1周）から厳密な新規性検証（複数周）まで自在にコントロール。

3. ペルソナ（役割）設定

「特許庁審査官」「出願人側弁理士」「技術専門家」を個別に配役。

「発明御三家」がもたらす4つの戦略的ユースケース



模擬審査シミュレーション

審査官役（GPT）の拒絶理由指摘に対し、弁理士役（Claude）が抗弁。出願前拒絶先回りと応答ロジック構築。



クレームの曖昧性チェック

3つのAIによる文言解釈の差異を比較し、第三者による意図しない権利範囲のブレを事前検出。



発明発掘と実施例の拡張

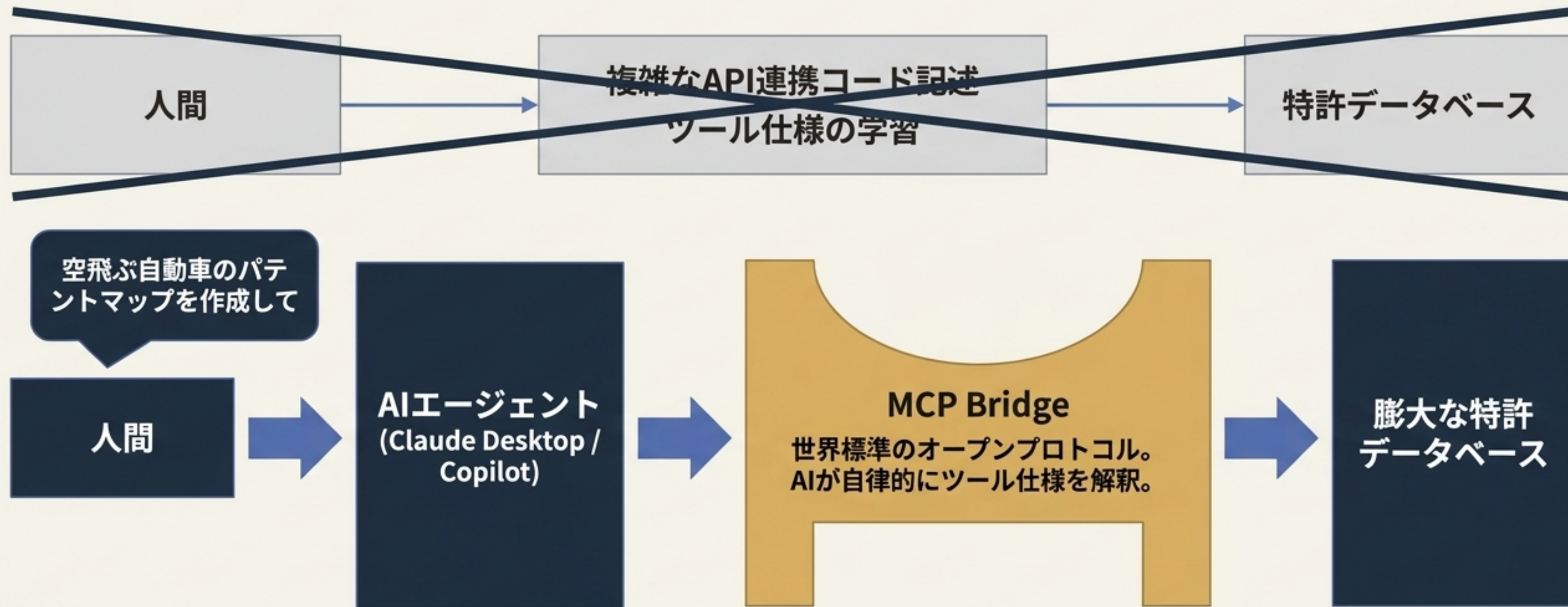
生の技術シーズを、発明者・エンジニア・弁理士役のAIとブレストし、強固な知財へ育成。



知財人材の教育プログラム

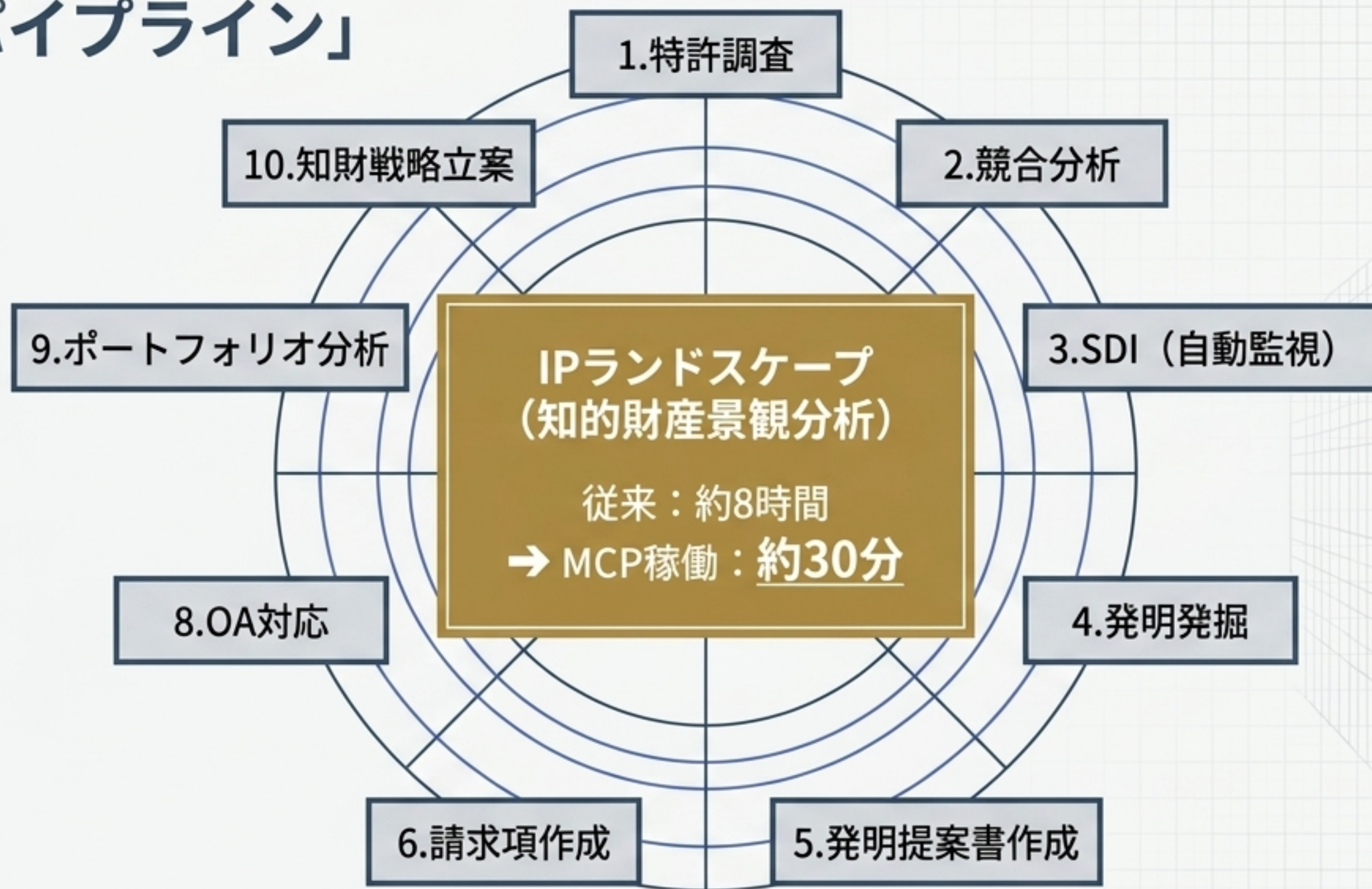
仮想の中間応答プロセスを若手担当者に追体験させ、実務の論理的思考を効率的に育成。

第二の柱：「IP Samurai MCPサーバー」の革新性



専用検索ツールの操作は不要。使い慣れたチャットUIから日本語で指示するだけで、AIが自律的にデータ抽出からレポート化まで完遂。

10の知財業務を一網打尽にする 「自動化パイプライン」



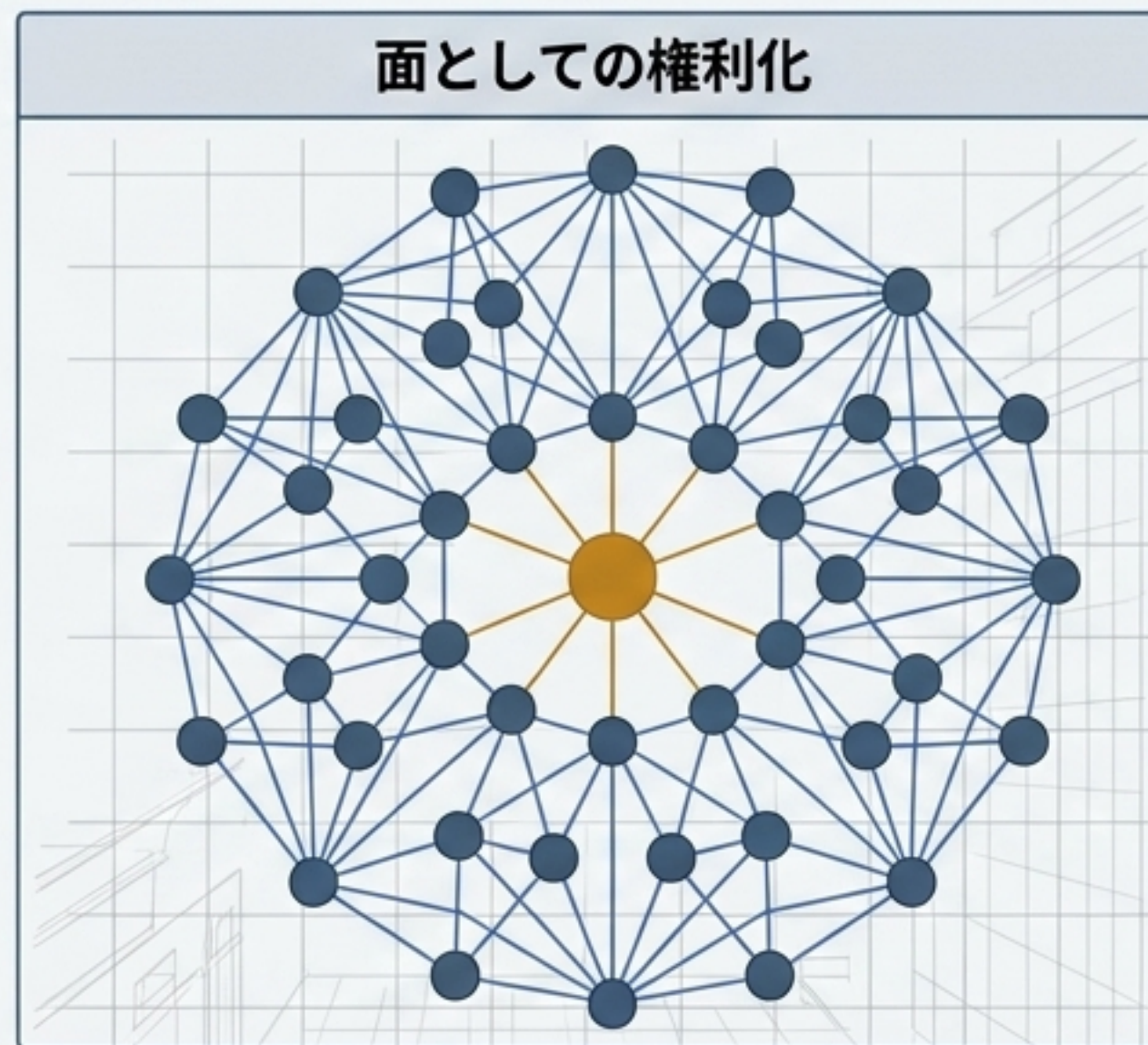
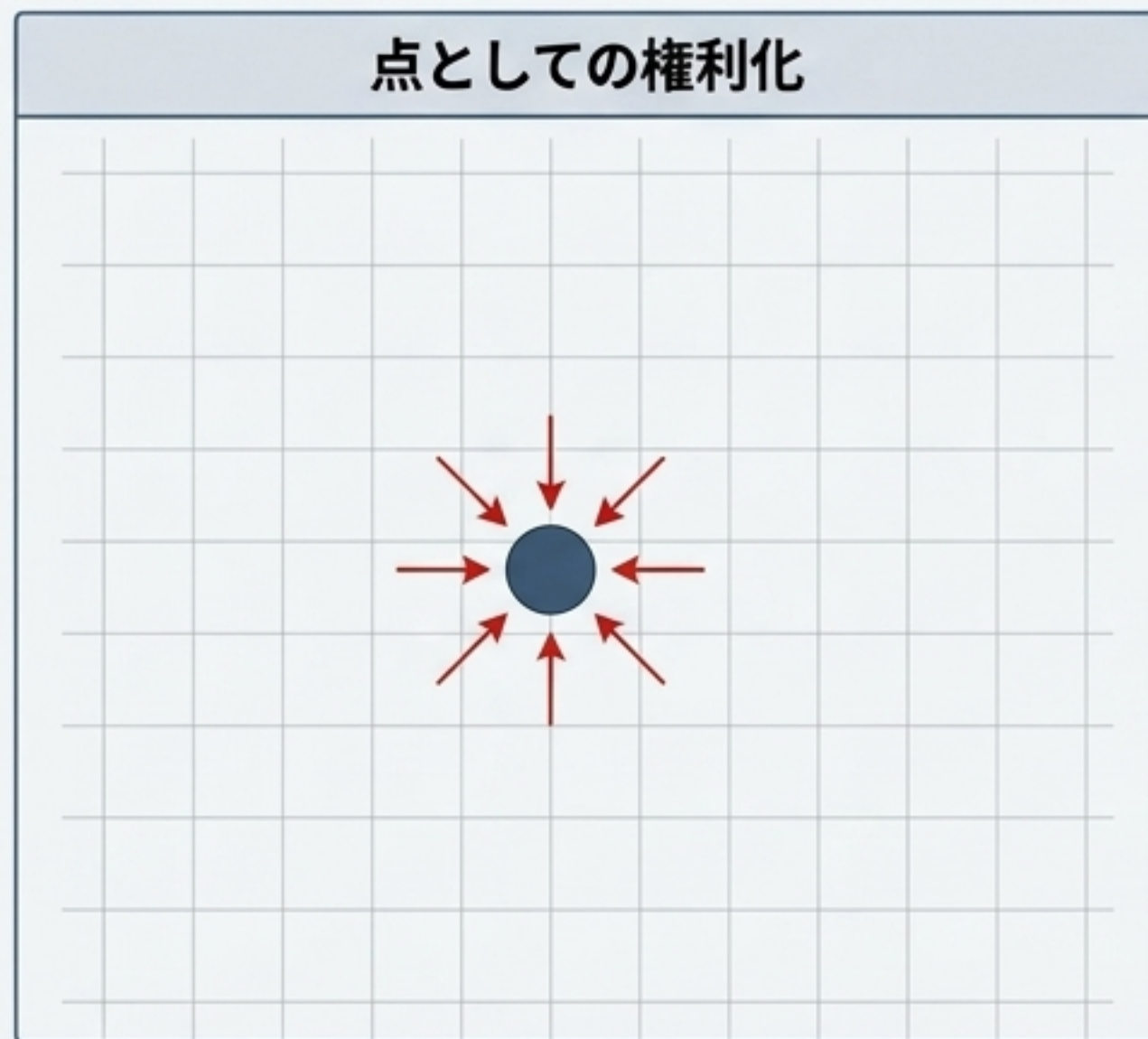
情報収集から戦略立案まで、知財部・研究開発部門の業務プロセスを包括的に自律化。

業界標準MCPアーキテクチャ徹底比較：AI Samurai vs Patentfield

Dimension	AI Samurai	Patentfield
データベース (DB)	自社独自開発の日米中特許実データ	国内外8,000万件以上の構造化DB
連携クライアント	Claude, Claude Code, Copilot等	Claude Desktop, Cursor, リモートMCP等
連携ツール (Scope)	検索, 調査, IPランドスケープ, 翻訳, 侵害判断	セマンティック検索, コマンド検索, 公報全文取得
処理フロー	情報取得から書類作成まで 一気通貫で自動化	Agent Skillsと連携し、分析の型と データ取得を分離
実務アウトプット	10の知財業務のドラフト一括生成	構成要件分解・対比のExcel自動出力

 両社の参入により、MCPによる外部特許情報への自律アクセスが知財DXの「デファクトスタンダード」として確定。

第三の柱：大阪大学共同研究 「特許網（パテントポートフォリオ）自動生成」



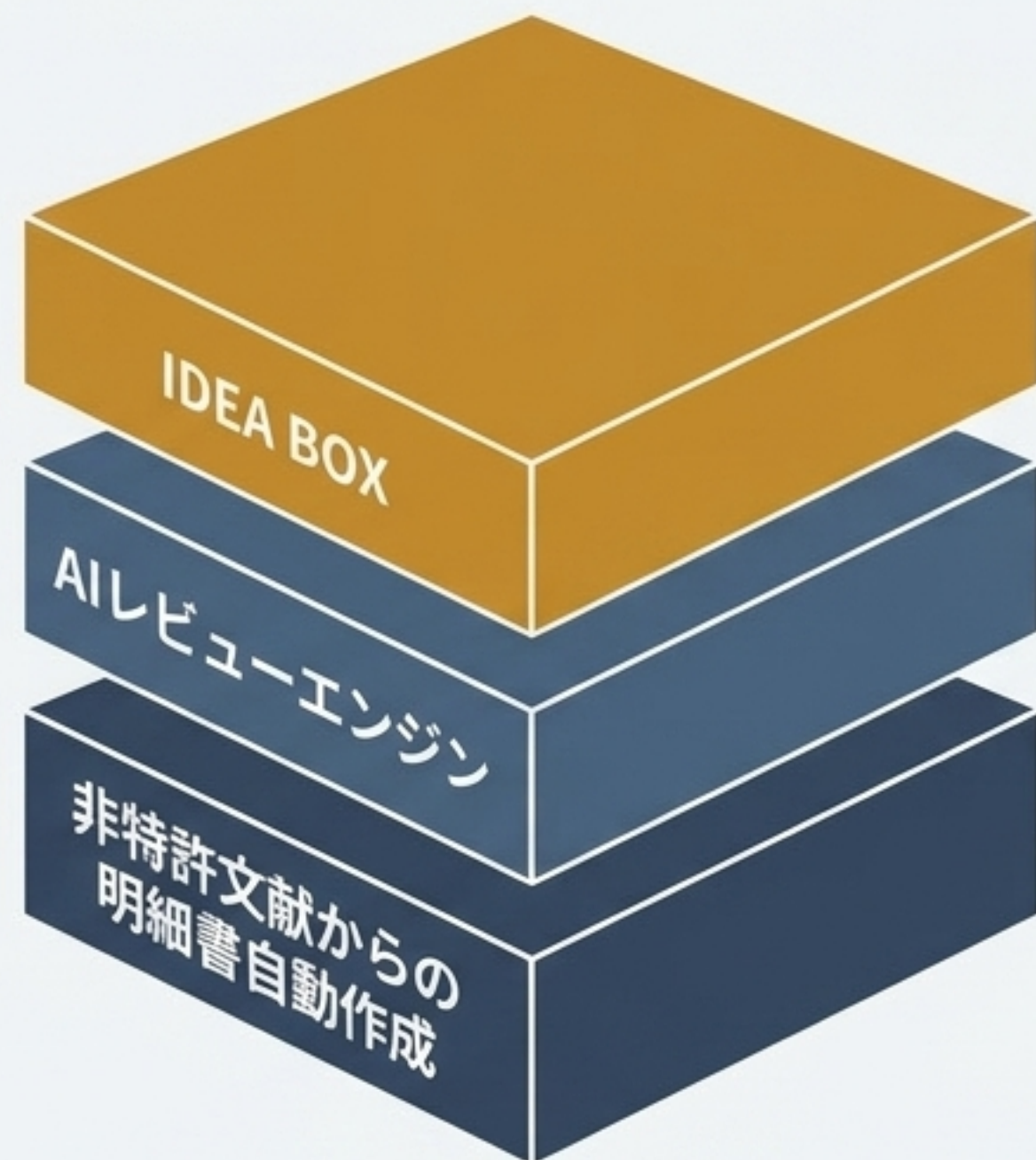
改良技術

周辺特許の
バリエーション

用途違い・
設計変更

技術仕様や開発メモをインプットするだけで、AIが自律的に競合回避ルートを予測。
バリエーションに対応する複数の特許明細書ドラフトを体系的に自動生成。

「体感スピード50倍」を可能にする 知財特化型技術スタック



複数の生成AI（マルチLLM）を切り替えながら円滑に接続する知財特化型の編集UI。

符号整合チェック（Markdown形式自動生成）、先行詞チェック、チェック、分野別の観点による瞬時の自動判定。

Word形式の発明メモ・論文から、請求項や詳細な説明を約3分で高精度生成。

これらの確立されたモジュールと最先端の学術アルゴリズムの融合が、上位レイヤー（特許網の一括制御）の劇的な開発速度を生み出している。

結論：新時代の「知財戦略コマンダー」フレームワーク



ツールオペレーターからの脱却 → プロンプト管理と戦略的指揮へ

AIエージェントと協働する知財戦略は、単なる「業務効率化」ではない。従来数ヶ月を要した知財創出フェーズを数時間単位へと超高速化し、世界的なイノベーション競争における「企業の知財防衛スピード」を根本から引き上げる核心的ドライバーである。